週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

June 21, 2019

英保守党党首選、ジョンソン氏が独走

◆英保守党党首選、ジョンソン前外相が独走態勢
◆ポンド、「合意なき離脱」警戒感で上値の重い動きが続くか
◆加ドル、米中首脳会談や 4 月 GDP に注目

予想レンジ
ポンド円　132.00-140.00 円
加ドル円　78.00-83.00 円

6 月 24 日週の展望

13 日からスタートした英与党・保守党の党首選はジョンソン前外相が独走態勢に入っている。5 回目の投票でジョンソン前外相が 160 票、ハント外相が 77 票獲得し、候補者は 2 人に絞られた。2 人は 22 日から全国約 16 万人の保守党党員の決選投票を経て、7 月 22 日の週にメイ首相の後継首相となる新党首が選出される。ジョンソン前外相は党員らの支持が高く、次期首相の最有力候補との見方は変わっていない。「合意なき離脱」への警戒感でポンドは引き続き上値の重い動きが予想される。

ジョンソン前外相は 10 月 31 日の離脱期限日までに離脱しなければ「政治の信頼は壊滅的な打撃を受ける」とし、「期限までに離脱する唯一の方法は合意なき離脱に備えることだ」と指摘した。欧州連合（EU）と離脱の合意の有無にかかわらず 10 月末までに離脱を実現する姿勢を改めて強調している。ファラージ党首が率いるブレグジット党が国民の支持率を高めている一方で、保守党は 5 月の欧州議会選で歴史的な敗北を喫するなど支持率が急落している。ブレグジット党から支持を奪い返さないといけないとの危機意識も、ジョンソン前外相の強硬路線を維持させているだろう。ジョンソン氏が「合意なき離脱を望んでいるわけではない」と述べたように、多くの強硬離脱派もできれば合意の下で離脱することを期待している。EU 側は離脱案をめぐる再交渉は否定しているが、EU も「合意なき離脱」を警戒しており、交渉の余地が全くないとは言えない。ただ、アイルランド国境問題でお互いに満足する回答を見いだすのは簡単ではない。

今週の金融政策会合でイングランド銀行金融政策委員会（MPC）は市場予想通りに金融政策の据え置きを決定した。議事要旨では、「インフレ期待は依然として抑制されている」と指摘した。

足もとの加ドルは独自の手がかりに乏しく、外部要因に振り回されるも、方向感は鈍い。来週は大阪 G20 サミットでの米中首脳会談が注目される。米中貿易摩擦などを背景とした世界経済の先行き懸念が、カナダ中銀（BOC）の慎重姿勢を強める大きな要因であり、米中協議の先行きを占う意味で今回の首脳会談は大きなポイントになる。また、4 月加 GDP の結果にも注目したい。

加政府は 18 日に内陸部と太平洋岸を結ぶパイプライン「トランスマウンテン」の拡張計画を承認した。加産原油の大半が割安な価格で米国に売られるなか、アジアなどの新市場への輸出を目指すのが狙い。ただ、同計画は、10 月の選挙を控えるなか大きな論争を呼んでおり、トルドー首相と各州政府との政治対立が起きる可能性や頓挫した場合の石油業界への悪影響などが懸念されている。

6 月 17 日週の回顧

米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果を受けてドルが全面安となり、ポンドドルは 1.27 ドル前半までポンドの買い戻しが進み、ドル／加ドルは 1.31 加ドル台まで加ドル高に振れた。来週に G20 を控えリスクオフの円買いは一巡し、ポンド円は 135 円前半、加ドル円は 80 円半ばで下げ渋ったが、中東の地政学リスクなどで戻りは鈍かった。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.